

平成29年度 校内研究の概要

1 研究主題

課題解決に向けて、主体的に学び合う授業の工夫

～「進んで学び 考えを深める子供」を育てるために～

(1) 目指す子供像

本校では、教育目標「思いやりのある たくましい子供」を掲げ、「進んで学び 考えを深める子供」の育成を目指している。発達段階に応じて、各学年部での目指す姿を下記のように設定する。

◎低学年：自分の考えを進んで表現する子供

◎中学年：自分の考えと友達のを比べながら、進んで表現する子供

◎高学年：互いの考えを認め合いながら、進んで表現する子供

(2) 研究の経緯

平成28年度は、「考えをつなぎ、深める学習 ～課題解決に向けて、主体的・協働的に学ぶ子供の育成を目指して～」を研究主題に、「①子供が学ぶ意味が分かるような授業構成 ②子供の意欲を喚起する課題提示 ③子供自らの学び確認できるようなまとめと振り返り」の3点を授業改善の視点として意識しながら取り組んできた。下記のような成果・課題が見られた。

○課題解決学習として「予想→結果を言葉や図でまとめる→結果からの考察→考えの比較→まとめ」の型を実施した。予想段階で、多様な意見が出て、実験して確かめたいという意欲につながり、主体的に学習を進めることができた。

○課題設定においては、「○○博士からの挑戦」、「○○クエスト」等のように、学年の発達段階に応じて、児童の興味をひくような課題提示がなされた。また、学習教材においても、児童が視覚的にも分かりやすいように、色分けされた物を用意したり、試行錯誤ができたりするような工夫も見られた。

○単元末のゴールの設定を、教師が、「だれに（相手意識）・何のために（目的意識）・どのように（方法意識）・どんな場面で（場面意識）」を意図的に設定しながら取り組むことで、児童も、ゴールイメージを共有しながら、活動することができた。

○友達との交流活動を通して、児童は、自分の考えを確かめたり、見直したりすることができた。交流活動を行う際には、「感想・アドバイス・質問」等の観点を事前に示すことで、「良かった探し」にとどまらず、友達の助言を取り入れて、自分の考えを再構築する児童も姿も見られた。

○交流活動では、ペア・グループ等の形態を学年や学習内容に応じて工夫することで、話し合いを深めることができた。

△何のために学習するのかという学ぶ意味（目的意識）を児童にもたせることで、児童は、意欲的に学ぼうとする。その単元の終末には、どのような力が付いているのか、授業者は意識しながら取り組む必要がある。

△児童に話し合わせたり、交流活動をさせたりする際には、課題を1つに焦点化し、話合いや交流活動がぶれないようにしていく。教師がこの1時間で何を学ばせたいのか、児童にどのような力をつけさせたいのか、意識して授業に臨んでいきたいと考える。

△黒板用プレート（課題・まとめ・振り返り）を授業に活用した。プレートがあることで、「課題」などをしっかり板書し、意識できたが、授業時間内にまとめ・振り返りができないことがあった。1時間の時間配分も授業に臨むうえで、大切にしていきたい。

△学習の「まとめ」をする際には、課題に対応した「まとめ」になるようにする。「振り返り」では、「楽しかった・おもしろかった」だけで終わるのではなく、「どのようなことができるようになったか」等、その1時間で力が付いたことを振り返ることができるようにしたい。

そこで、今年度は、「①課題に対応したまとめ」「②主体的・対話的に学ぶ子どもを育成するための学習形態の工夫」を意識して、授業改善を進めていく。特に②においては、学び合いの場の設定やペアやグループ等の学習形態の工夫を学年に応じて進めていく。

2 授業改善の視点

(1) 子供が学ぶ意味が分かるような授業構想

- ・「何を」「なぜ」教えるのかを教師が把握し、「身に付けさせたい力」を明確にしたか。
- ・単元全体のねらい・単元のゴールの姿を子供と教師が共通理解したか。
- ・自分の考えを話したり書いたりする活動やペアやグループ、全体で話し合う活動は課題を解決するために効果的であったか。

(2) 子供の意欲を喚起する課題提示

- ・「やってみよう」という思いを喚起するために、適度な困難さがあり、努力すれば解決できると感じられる課題か。
- ・子供にとって、見通しをもち考える必要性の感じられる課題か。

(3) 子供が自らの学びを確認できるようなまとめと振り返り

- ・学んだことが明確になるまとめであったか。
- ・意欲を高め、学びをつなげる振り返りであったか。

3 授業で大切にしたいポイント

(1) 「導入」：意欲の喚起

- ・課題提示の工夫（子供に投げ掛ける言葉で書く）

(2) 「展開」：主体的・対話的な学び

- ・自力解決の時間確保
- ・関わり合う場の設定（学び合い、教え合い）

(3) 「まとめ」：まとめと振り返り

- ・ 子供の言葉によるまとめ（例：キーワードを活用したまとめ）
- ・ 新しく獲得した事柄と既存の事柄をつなげるような振り返り
- ・ 子供の集中力がとぎれないためにも、時間内にまとめ・振り返りをする。

4 研究の方法

- (1) 授業改善の視点を明確にした提案性のある授業研究を積み重ねていく。
 - ・ 授業者は、国語・算数・生活・社会・理科の中、1教科を年1回公開し、学習上の課題を共通理解する。
 - ・ 授業公開は、略案指導案（A4で1枚）を基本とする。ただし、外部への公開は、細案とする。
 - ・ 研究内容に関わる授業改善で効果を上げた指導方法を共有し、各自の実践に生かす。
- (2) 全国学力・学習状況調査や県小教研学習指導改善調査、NRT学力検査結果などのデータ、学年テストなどを基に、学習上の課題を洗い出し、指導の改善に努める。
- (3) 基礎学力の確実な定着と学習習慣の確立を図る。（学年テストの実施）
 - ・ 学年テストは、各学年、年4回実施。問題は、基礎的基本的事項＋思考問題
 - ・ 合格率70%以上になるよう事前指導を行う。
 - ・ 努力の成果が反映されるような出題にする。
 - ・ ポイントを絞って出題するなどして、弱点の克服に役立てる。
 - ・ 「わたしの計画」に基づく「家庭学習強調旬間」を全校一斉に取り組む。【中学校区の取組】
- (4) 基礎研修や外部講師による研修会を通して、学んだことを授業改善に生かす。
- (5) 特色ある教育活動の推進をする。
 - ・ 全校で取り組む朝読書「さわやかタイム」と地域ボランティアによる読み聞かせ「絵本箱」
 - ・ 児童の思いや願い、意識の流れを大切に生活科、総合的な学習の取組
 - ・ 「書くこと」の集大成となる全校児童による個人文集「松の実文集」作成
- (6) 研究評価は、授業実践、研究協議、児童による学習アンケート、NRT学力検査結果及びQ-U、hyper-QUとの相関等から、今年度の研究を検証する。

5 主な研修

月	授業研究・基礎研修	月 日	備 考
4	・研修の年間計画		全国学力・学習状況調査 18日(火) 家庭確認 27日(木)・28日(金)
5	・ 授業研修①【2-2赤堀・5-1吉川】	29日(月)	運動会 20日(土)
6	・ 中学校区計画訪問 半田小授業公開(国語)…授業研修② 【3-2佐藤】	28日(水)	第1回学年テスト 13日(火)
7	・ 授業研修③【3-1持田・4-2今井・ 5-2田辺】 ・県小教研学習指導改善調査の採点、 処理、授業改善への検討	10日(月) 夏季休業中・午後	県小教研学習指導改善調査 日()日() マーチングパレード 24日(月) 親善水泳大会 31日(月)
8	・アクティブラーニング研修 ・教育文化講演会 ・人権教育・同和教育研修 ・図工・版画実技研修 ・特別支援教育研修 ・英語研修	日() 21日(月) 日() 日() 日() 日()	
9	・Q-Uの学級経営への生かし方研修 ・ 市教育委員会学校訪問(授業研修④)	日() 5日(火)	自然教室 8月 31日(木) ~9月 1日(金) 第2回学年テスト 14日(木)
10	・ 授業研修⑤【6-1下村・4-1内藤】 ・ 初任研公開授業(10月か11月位) … 授業研修⑥	23日(月)か16日(月)	いじめ見逃しゼロスクール集会 13日(金) 音楽発表会 28日(土)
11	・ 12年研公開授業(11月か12月位) … 授業研修⑦ ・読書旬間 ・人権教育強調週間 (人権教育、同和教育授業実践) ・ 授業研修⑧【1-2高橋・特支2学級】	日()~() 日() ~ 月 日() 13日(月)か20日(月)	第3回学年テスト 10日(金) 修学旅行 15日(水)~16日(木) 松の実フェスティバル 29日(水)
12	・ 授業研修⑨【1-1金子・特支2学級】	11日(月)	個別懇談 5日(火)~8日(金)
1			NR T学力検査 30日(火)31日(水)
2	・研修のまとめ作成		スキー教室 9日(金) 第4回学年テスト 15日(木) 6年生を送る会 28日(水)
3	・製本		